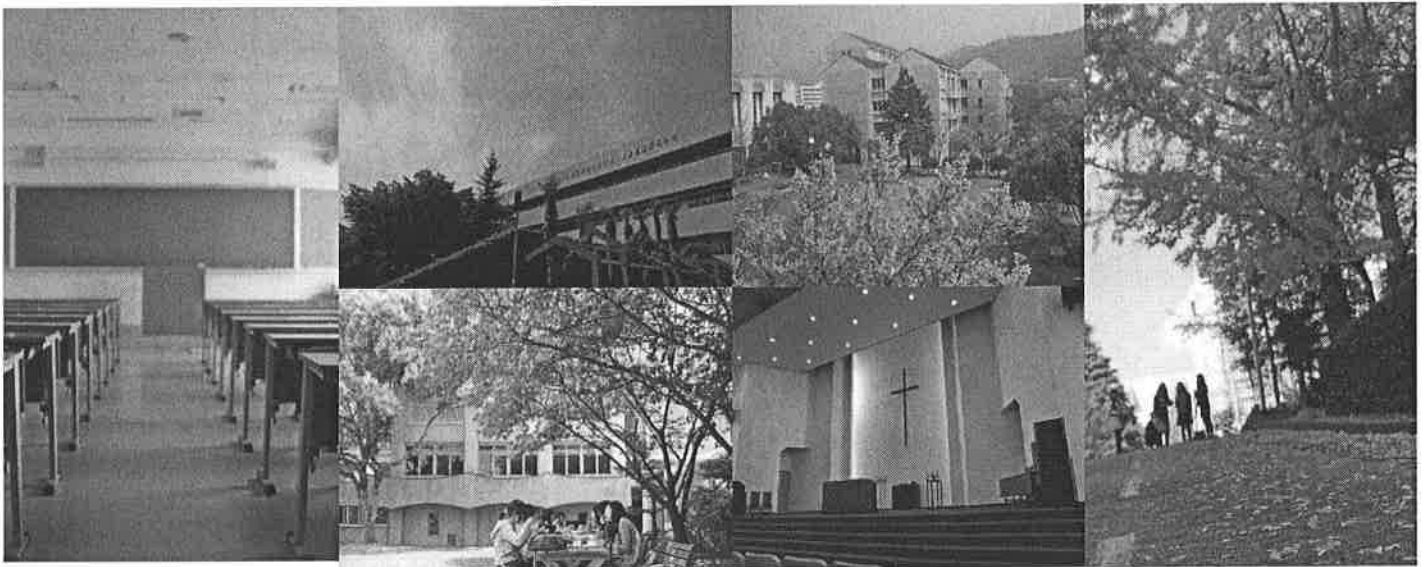


2014年度 事業報告書



学校法人 松山東雲学園

目次

1. 法人の概要

(1) 建学の精神	1
(2) 学校法人の沿革	1
(3) 設置する学校・学部・学科等	2
(4) 学校・学部・学科の入学定員、学生数の状況	3
(5) 役員・評議員	5
(6) 教職員の人数	5

2. 事業の概要

(1) 主な事業	7
(2) 大学・短期大学	8
(3) 高等学校・中学校・附属幼稚園	24
(4) 耐震化事業等の概要	30
(5) 自己点検評価	31
(6) その他	32

3. 財務の概要

(1) 2014（平成26）年度決算概要	33
(2) 経年比較資料	39

4. 監事監査報告書

4	1
---	---

1. 法人の概要

(1) 建学の精神

松山東雲学園の建学の精神は、「信仰・希望・愛」であらわされるキリスト教精神です。本学園はこの精神にもとづき、神を畏れ、神による希望に生き、神と隣人を愛する、自立した女性を育成する教育を目指します。

(2) 学校法人の沿革

1886 (明治 19) 年	松山第一基督教会の二宮邦次郎牧師により四国最初の女学校として松山女学校を設立 (9月16日)。
1906 (明治 39) 年	米国伝道局の管理に移されミッション・スクールとなる。
1918 (大正 7) 年	松山女学校の校章を制定
1920 (大正 9) 年	校舎を松山市大街道三丁目二番地二四(旧赤十字病院跡、現高等学校)に移転。
1925 (大正 14) 年	松山女学校の校歌を制定
1932 (昭和 7) 年	高等女学校令により校名を松山東雲高等女学校と改称。
1945 (昭和 20) 年	松山空襲、校舎焼失。キリスト教精神に基づく教育を明確にして再出発。
1947 (昭和 22) 年	松山東雲中学校を併設。
1948 (昭和 23) 年	松山東雲高等学校と改称。
1952 (昭和 27) 年	松山東雲カレッジを設立。
1957 (昭和 32) 年	松山東雲栄養学院を設立。
1964 (昭和 39) 年	カレッジ、栄養学院を発展的に解消し食物科の短期大学として発足。二宮源兵、初代松山東雲短期大学学長に就任。松山東雲短期大学の開学式を行う。
1966 (昭和 41) 年	松山東雲短期大学に家政科、保育科、英文科の3学科を新設。
1967 (昭和 42) 年	松山東雲短期大学の学歌を制定
1968 (昭和 43) 年	松山東雲短期大学に附属幼稚園を設立。
1976 (昭和 51) 年	松山東雲学園創立 90 周年記念式。 松山東雲高等学校創立 90 周年。 愛真館 (チャペル・図書館) 献堂式を行う。
1984 (昭和 59) 年	松山東雲短期大学に秘書科を新設。
1986 (昭和 61) 年	松山東雲学園創立 100 周年記念式。 松山東雲高等学校創立 100 周年。 100 周年記念館の献堂式を行う。
1987 (昭和 62) 年	食物科と家政科を統合・改組して生活科学科を新設。
1988 (昭和 63) 年	米国ボストンの伝統校ラセル大学と姉妹校提携を行い、短期体験留学

	による相互交流を開始。
1989（平成元）年	最新情報処理システムの導入をはじめとした教育研究設備を備え、シンボルタワーを配した校舎D館落成。
1991（平成3）年	生涯学習時代に対応して、松山東雲学園オープンカレッジを開設。
1992（平成4）年	松山東雲女子大学人文学部（人間文化学科・言語文化学科）を開学。岡本道雄、初代松山東雲女子大学学長に就任。
1998（平成10）年	松山東雲女子大学人文学部言語文化学科を国際文化学科に名称変更。
1999（平成11）年	松山東雲女子大学人文学部に人間心理学科を新設。
1999（平成11）年	松山東雲短期大学生生活科学科生活環境専攻を生活デザイン専攻に名称変更。
1999（平成11）年	松山東雲短期大学生生活科学科生活文化専攻を生活文化学科へ学科昇格。
1999（平成11）年	松山東雲短期大学英文科を募集停止。
2001（平成13）年	オープンカレッジを発展的に解消し、松山東雲エクステンションセンターを開設。
2002（平成14）年	松山東雲短期大学に専攻科福祉専攻を新設。
2004（平成16）年	学生のキャリア形成支援の拠点としてキャリアサポートセンターを開設。
2007（平成19）年	松山東雲女子大学人文学部を人文科学部とし、心理子ども学科・国際文化学科を新設。
2008（平成20）年	松山東雲短期大学生生活文化学科を「介護福祉士」養成に特化し、生活科学科介護福祉専攻として改編。
2009（平成21）年	松山東雲短期大学専攻科福祉専攻を廃止。
2011（平成23）年	松山東雲学園創立125周年。 松山東雲短期大学生生活科学科生活デザイン専攻を廃止。
2012（平成24）年	松山東雲女子大学開学20周年。
2014（平成26）年	松山東雲短期大学開学50周年。 松山東雲短期大学秘書科を現代ビジネス学科に名称変更。

（3）設置する学校・学部・学科等

- ① 松山東雲女子大学 [開学年月：1992（平成4）年4月]
人文科学部 心理子ども学科 [子ども専攻、心理福祉専攻]
人文科学部 心理子ども学科 [子ども福祉専攻] 国際文化学科
- ② 松山東雲短期大学 [開学年月：1964（昭和39）年4月]
保育科 秘書科（2年） 現代ビジネス学科（1年）
生活科学科 [食物栄養専攻、介護福祉専攻]
- ③ 松山東雲高等学校 [開校年月：1948（昭和23）年4月]
全日制課程 普通科
- ④ 松山東雲中学校 [開校年月：1947（昭和22）年4月]
- ⑤ 松山東雲短期大学附属幼稚園 [開園年月：1968（昭和43）年4月]

(4) 学校・学部・学科の入学定員、学生数の状況 [2014(平成26)年5月1日現在]

① 松山東雲女子大学 人文科学部

学年	心理子ども学科				計	
	子ども専攻 [編入学定員:5]		心理福祉専攻 [編入学定員:5]			
	定員	現員	定員	現員	定員	現員
1年	50	51	60	45	110	96
2年	50	48	60	40	110	88
3年	55	61	65	34	120	95
4年	55	69	65	38	120	107
計	210	229	250	157	460	386

松山東雲女子大学 人文科学部

(単位:人)

学年	心理子ども学科		国際文化学科		計	
	子ども福祉専攻					
	定員	現員	定員	現員	定員	現員
1年	—	—	—	—	—	—
2年	—	—	—	—	—	—
3年	—	—	—	—	—	—
4年	—	2	—	2	—	4
計	0	2	0	2	0	4

松山東雲女子大学 総計

定員	460	現員	390
----	-----	----	-----

② 松山東雲短期大学

(単位:人)

学年	保育科		現代ビジネス学科 (1年) 秘書科(2年)		生活科学科				計	
					食物栄養専攻		介護福祉専攻			
	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員
1年	100	102	70	76	80	87	40	17	290	282
2年	100	103	70	83	80	79	40	16	290	281
計	200	205	140	159	160	166	80	33	580	563

③ 松山東雲高等学校(普通科) (単位:人)

	募集人員	現員
1年	90	93
2年	90	107
3年	90	90
計	270	290

④ 松山東雲中学校 (単位:人)

	募集人員	現員
1年	50	33
2年	50	26
3年	50	29
計	150	88

⑤ 松山東雲短期大学附属幼稚園 (単位:人)

年齢	学級数	現員
満3歳	1	3
3歳	2	62
4歳	2	64
5歳	2	53
収容定員 現員計	190	182

松山東雲学園 総計

定員	1,650	現員	1,513
----	-------	----	-------

(5) 役員・評議員[2014(平成26)年5月28日現在]

①役員

・理事【定数9人以上11人以内 現員11人】

山崎 文雄 (理事長)

棟方 信彦 阿部 正幸 大石 尊 森 日出樹 亀岡 篤
 山内 建 吉村真理子 上林順一郎 塩崎千枝子 平尾 由紀

・監事【定数2人 現員2人】

永井 勲江 烏谷 紀興

②評議員【定数20人以上24人以内 現員23人】

山崎 文雄 棟方 信彦 阿部 正幸 大石 尊 曲田志保子
 森 日出樹 亀岡 篤 児嶋 雅典 中村 治 篠崎 英代
 伊藤 浩美 中尾 祝子 一色 保子 松本 由美 永野 昌二
 池田 智子 小野 幸代 上林順一郎 益 基 塩崎千枝子
 山内 建 吉村真理子 平尾 由紀

(6) 教職員の人数[2014(平成26)年5月1日現在]

① 専任教員

【松山東雲女子大学 人文科学部】

(単位:人)

	学 長	教 授	准教授	講 師	計
学長	1	-	-	-	1
心理子ども学科	-	9	6	7	22
合 計	1	9	6	7	23

【松山東雲短期大学】

(単位:人)

	教 授	准教授	講 師	計	
保 育 科	3	1	6	10	
現代ビジネス学科	7	0	0	7	
生活科学科	食物栄養専攻	2	3	2	7
	介護福祉専攻	2	0	2	4
合 計	14	4	10	28	

【松山東雲高等学校・松山東雲中学校】 (単位:人)

校長	教頭	教諭	計
1	2	10	13

契約教員	総計
17	30

【松山東雲短期大学附属幼稚園】 (単位:人)

園長	副園長	教諭	計
(兼務 1)	(非常勤 1)	11	11

②専任職員 (単位:人)

所 属	専任職員・嘱託職員 (助手含む)
松山東雲女子大学・短期大学	45
松山東雲高等学校・中学校	3
松山東雲短期大学附属幼稚園	0
合 計	48

2. 事業の概要

(1) 主な事業

①特別予算事業

【大学・短期大学】

- ・短期大学創立 50 周年記念事業
- ・動物実験室エアコン交換
- ・D 館 5 階情報教室システム更新
- ・キャレルディスク用ノートパソコン一式の購入
- ・D 館屋上防水工事費
- ・高圧気中開閉器更新工事
- ・冷凍冷蔵庫の購入
- ・大学短大案内ビデオ制作
- ・ファイヤーウォール・ウイルス対策等サーバー更新
- ・D 館屋根修理工事費

【高等学校・中学校】

- ・石垣変位計測業務委託費
- ・生徒用机椅子の購入
- ・楽器代の購入
- ・防犯カメラシステム設置
- ・ミーティング用テーブル・椅子の購入

【幼稚園】

- ・じゅうたん、畳替え、テーブルクロス代等の購入

【法人】

- ・会計基準の改正に伴う財務システムの修正

②耐震対応等事業

【高等学校・中学校】

- ・ピアス館耐震改修工事費及び追加工事
- ・ピアス館実施設計費

(2) 大学・短期大学

[1] 教育・研究

① 大学

◇現状の把握と課題について

基本方針は「教育の質の保証」と「学士力の養成」である。2014年度は改組後の第1期生が卒業する年度である。2013年度の検討を基に、2014年度に教学改革を実践した。女子大学の教学改革を可能な範囲で進め、教員業務を効率化を図る。これにより、教育・研究の時間の余裕を確保し、大学の教育力を向上する。

現状の教育課程の運営・編成にかかわる諸対応、また短期大学と一体化可能な教務関係業務を検討し、より効率的な教育環境を構築する。

1. 成績認定資料について、GPA 制度導入と併せた提示方法の検討

(学生ポートフォリオと GPA 制度の効果的な導入)

2. 2015 年度以降の教育課程にむけた教育内容・方法の改善の検討

1) 単位制度の実質化と CAP 制度の効果的運用

2) 評価制度の明確化と主体的学習の促進

①成績評価の適正化

[現状] 成績評価の分布情報の提供による自己啓発 → 成績評価基準の再検討

②GPA 制度導入についての検討

3) 進級制度の再検討 (必修科目の履修年次、履修単位数の幅などを含む)

4) 卒業認定方法の再検討 (教育効果の測定も含む)

3. 短期大学教務部と協力し、より効率的な教務システムを導入する

1) 学生情報の一元化を目的とし、本学に導入可能な教務システム

2) 短大教養科目と女子大基盤科目について、大学での基礎教育とした構成の検討

3) 大学教育レベルの維持、教育力の向上のために、リメディアル教育の検討

◇達成状況について

2014 年度は文部科学省の補助金申請に絡め、各執行部署に協力を呼び掛け、教学改革を積極的に推進した。

- ・平成 26 年度私立大学改革総合支援事業において、タイプ 1「教育の質的変換」、タイプ 2「地域発展」に本学が選定された。そして、平成 26 年度文部科学省私立大学等教育研究活性化設備整備事業において「アクティブラーニングのための e ポートフォリオシステム」の申請が採択された。これにより、2015 年度から学生ポートフォリオシステム、教職カルテ管理システム、授業評価アンケートシステム、オンライン教育サイト Moodle 2 を教学利用することが可能になった。
- ・e ポートフォリオシステムの導入に合わせ既存の学務システムとのデータ連携を図り、2015 年度から、現時点で一元化された学生情報が活用できるように計画した。

- ・私立大学改革総合支援事業への申請条件に合わせて、GPA (Grade Point Average) の 2015 年度からの導入を大学として決定した。2015 年度より、学期 GPA、累積 GPA (2015 年度入学生のみ) が導入され、学生指導に活用できるようになった。
- ・GPA 導入に合わせ、成績評価基準の適正化を図る試みを盛り込んだ。(教務部長による期待値の提示)
- ・教育課程表を専攻別に分離し、専攻会による指導体制の基盤とした。
- ・短期大学と共通する教務関連事項については、短大教務部会と歩調を合わせ「合同教務部会」で協議しながら運営を進めた。
- ・成績不振の学生の基準として、「学期末 10 単位、1 年次末 20 単位、2 年次末 40 単位、3 年次末 80 単位、かつ GPA1.0 未満」という基準とを設けた。(「単位制度の実質化と CAP 制度の効果的な導入」に関する一つ的手段)

◇2014 年度卒業生数について

前学期卒業生数は心理子ども学科子ども福祉専攻 1 名 計 1 名、後学期卒業生数は心理子ども学科子ども専攻 67 名、心理子ども学科心理福祉専攻 32 名、心理子ども学科子ども福祉専攻 1 名、国際文化学科 1 名 計 101 名である。

◇2014 年度に向けての課題について

- ・2015 年度に導入される「e ポートフォリオシステム」等を効果的に学生と教員が活用できるように、運営体制を整える必要がある。システムを設置するだけでなく、運用を拡大することが必要である。具体的には、教務部、キャリア支援部、学生支援部で連携し、情報メディアセンター (情報教育センター) で支援する体制を構築し、学生や教員が利用しやすい環境を構築する必要がある。
- ・卒業生の質の保証を行うため、「卒業研究」の進め方を 3 年次の「心理子ども演習」も含めて検討する必要がある。(3 年次に「研究計画書」の提出と公開、4 年次の中間報告会での発表の義務付けなど)
- ・専攻別の教育課程をさらに実質化するために、専攻教員が所属する学生を教育する体制を強化する。
- ・「教職カルテシステム」を導入するが、本学仕様でないので、既存のものに合わせる必要がある。
- ・教養教育・基盤科目について担当する教員が集まり、検討する場を設ける必要がある。
- ・学力レベルの低い学生向けの「リメディアル教育」を可能な部分から開始する。
- ・女子大学の教学改革により、教員業務を効率化し、教育・研究の時間の余裕を確保し、大学の教育力を向上する。

②短期大学

◇現状の把握と課題について

教務部の業務としては、教育課程、授業時間割、授業概要、学籍異動、保護者懇談会、入学前情報発信などがあげられ、従来はこれらの業務を各学科・専攻、関連部署と連携しながら、ミ

スなく執行していくことが求められていた。しかしながら近年の厳しい大学経営の時代を迎え、本学の教育内容も社会のニーズにあわせ、かつ本学の特徴を出したものに改革して行くことが求められる。このような意識をもって、以下の目標を設定し大学教務部と合同で取り組む。

1) 学生情報の一元化

現在、教務部、入試部、学生支援部、キャリア支援部等でそれぞれ学生情報を収集し、管理しているが、横の連携に問題がある。そこで学生情報を一元化できるシステムを構築し、学生情報を学生指導・学生支援に活かせるシステムを構築する。

2) 教養科目・基盤科目の見直し

教養・学部共通教育研究会については現在開催していないが、今後は必要に応じて開催する予定である。教養科目・基盤科目も、現在大学生として身につけさせなければならない教養とは、また大学卒業後社会人として身につけておかなければならない教養とはという視点で、見直す必要がある。

3) リメディアル教育の構築

リメディアル教育に関しては、Vision 2020+の特色ある教育方法グループから提案があると思われ、それを受けて具体的に検討する。短大では駿台教育研究所に委託し、入学予定者に対し国語の理解力テストを実施している。しかしながらこのテストでは入学予定者の学力の現状把握はできるが、その問題点を改善するプログラムが入学後の教育課程に設けられていない。

◇達成状況について

1) 学生情報の一元化

後述するeポートフォリオの導入にあわせ、既存の学務システムとのデータ連携を図り、2015年度より一元化された学生情報が活用できるように計画した。

2) 教養科目・基盤科目の見直し

女子大教務部との合同教務部会において検討したが、まず短大の教養科目において、女子大ならではの授業科目として「女性と健康」、「女性学（実践編）」の2科目を開設した。

3) リメディアル教育の構築

2016年度入学予定者から、女子大・短大共通の国語の実力評価試験を実施することとなった。その試験結果をもとに実施する入学後の教育プログラムを、作業チームを立ち上げ検討することとなった。

4) 文部科学省の補助金の獲得

2014年度は文部科学省の補助金申請を行うために、各関連部署と協力し、教学改革に取り組んだ。その結果、平成26年度私立大学改革総合支援事業において、タイプ2「地域発展」に本学が選定された。

5) eポートフォリオの導入

女子大学が平成26年度文部科学省私立大学等教育研究活性化設備整備事業において「アクティブラーニングのためのeポートフォリオシステム」の申請が採択され、短大もそのeポートフォリオを活用することとなった。その結果、2015年度より、学生eポートフォリオシステム、教職カルテ管理システム、授業評価アンケートシステム、オン

ライン教育サイト Moodle 2 を教学利用することが可能となった。

6) GPA 制度の導入

2015 年度より GPS 制度の導入を決定した。学期 GPA と累積 GPA を成績表に明記することとなった。ただし、GPA 制度の活用に関しては、現時点では学生の成績評価の 1 つの参考資料とすることとし、学生支援への活用に関しては今後検討する。

7) 成績不振の学生への対応

女子大教務部との合同教務部会において、成績不振の定義を決定し、該当する成績不振の学生への対応を策定した。勉学意欲を損失した学生や退学者への早期発見・対応が可能となった。

8) 学長をリーダーとする全学的な教育マネジメント体制の確立

学長をリーダーとする全学的な教育マネジメントは、運営委員会が担うこととなった。

◇2014 年度卒業生数について

前学期卒業生数は秘書科 3 名、生活科学科食物栄養専攻 1 名 計 4 名、後学期卒業生数は保育科 101 名、秘書科 78 名、生活科学科食物栄養専攻 65 名、生活科学科介護福祉専攻 13 名 計 257 名である。

◇2015 年度に向けての課題について

- 1) 教養科目・基盤科目の見直し
- 2) リメディアル教育の構築

[2] 学生支援

① 学生の心身のサポート

本学は、学生の心身のサポートとして、保健室とカウンセリングルームを設置している。

保健室は、以下のサポートを行っている。

- ・定期健康診断を実施し、結果を個人通知し未健診・再検査者には受診用紙を同封している。
- ・季節ごとの流行している病気に関する情報を周知する。
- ・助産師さんのからだの相談（年 4 回）、婦人科医師の相談（年 2 回）

カウンセリングルームは、以下のサポートを行っている。

- ・「心身の健康カード」
- ・「校医による心の相談日」（年 6 回）
- ・本学の教員や臨床心理士による「個別相談」

② 学生会活動

学生会活動とは、本学学生の自治的・組織的な諸活動をいい、各種行事・クラブ活動などをはじめとし、学生生活全般を充実した有意義なものにするため、学生自らが組織し取り組む活動です。本学学生はすべて学生会の構成員で、そのことにより様々な権利を有します。学生会主催の行事としては、ウェルカムセミナー（4 月）、清涼祭（7 月）、学生総会（5 月）、大学祭（11 月）、卒業記念パーティー（3 月）などがあります。

③クラブ活動

一人でも多くの学生が正課外活動に参加し、それぞれの志向性に応じた技術・知識を高めるとともに友情を培い、充実した学生生活を送ることを目標としている。本学では、諸活動で成果を上げた学生に対して、学生表彰制度を設けている。

文化クラブは、清涼祭や大学祭、オープンキャンパス等の学内イベントでパフォーマンスを通して、普段の活動成果を発表している。その中で特に目立っていたのが、2014年度に同好会から部活動に昇格した「書道が一らず」だった。2014年10月に松山市で「日本青年会議所第63回全国大会」が開催され、それにとまって行われた名古屋青年会議所の式典「ナゴヤナイト」にて、「書道が一らず」の部員6名がパフォーマンスを披露した。また、「書道が一らず」は、2015年1月4日（日）、桑原公民館分館にて行われた新春書き初め大会にて、書道パフォーマンスの披露と子どもたちの書き初めの指導をした。

体育クラブは、四国インカレをはじめ、諸大会で練習成果を挙げている。ソフトテニス部は、四国インカレで団体戦優勝、文部科学大臣杯全日本大学対抗選手権大会で団体戦ベスト16のほか、個人戦でも数々の好成績を記録した。柔道部は、中国四国学生柔道優勝大会で3人制優勝（7連覇）、5人制4位の好成績だった。バレーボール部は、秋季リーグで34年振りに優勝を果たした。以下のクラブ、個人も四国インカレや全国大会で輝いていた。

- ・フットサル：四国インカレ初出場初優勝
- ・ライフル・エアピストル射撃競技

松山東雲短期大学の生活科学科食物栄養専攻の篠浦玲子さんは、ライフル射撃の大会で上位入賞を重ねていた。また、日本の代表選手として、「第5回世界大会射撃選手権」にも出場した。

また、本学からは5名の学生が「長崎国体」に出場した。ソフトテニス3名、バレーボール2名、ライフル射撃1名。そのうち、ソフトテニスは、成年女子6位の好成績を収め、14年ぶりに入賞を果たした。

2014年度活動したクラブは、以下の通りである。

- ・文化クラブ：すういんぐが一らず（吹奏楽）、草月（華道）、着装、書道が一らず、茶道などの18クラブ
- ・体育クラブ：バレーボール、ソフトテニス、柔道、バスケットボール、バドミントンなどの8クラブ
- ・同好会：剣道、しののめバルーンアート、しののめ放送などの8同好会
- ・その他正課外活動：生協学生委員会、国際交流フレンドシップ（留学生との交流活動）



[3]キャリア支援

① 就職支援事業

2014年度求人件数は前年比11%増加したものの、自主性やコミュニケーション能力などを求める企業の厳選採用が継続され就職環境は厳しいものがあつた。しかし、本学で取り組んだ人材育成プログラム「ディズニーおもてなし研修」「東京PBL研修」などのキャリア形成支援の成果などにより就職率は大学98.9%、短期大学97.9%と高い就職率で6年連続96%以上を確保することができた。

② 科別専攻別進路状況

科別専攻別で見た場合、女子大学では「子ども専攻」が昨年に引き続き松山市など公立保育士に多数採用され就職率98.5%を達成するなど高いレベルを維持することができた。一方、短期大学「保育科」も2年連続で松山市公立保育士に採用されるなど就職率99%を確保することができ、生活科学科においても「食物栄養専攻」「介護福祉専攻」が100%を達成、本学独自の就職支援セミナー等の効果が表れた。

③ 学内ガイダンス・セミナー等の開催

A. 女子大学

入学直後から始まるキャリアプログラムに加え、3年次4月から4年次後期まで続く「キャリア支援ガイダンス」を中心に、基盤科目の「学びの基礎」に始まり、さまざまな支援プログラムを用意している。また、教学面では「キャリア論」「ビジネスコミュニケーション」等の講義を1,2年次から開設し、早い時期からキャリアについて考える機会を提供している。

B. 短期大学

1年次10月から7回の「就職ガイダンス」を実施している。内容は「就職活動の進め方」「自己分析」「業界研究・職種研究」「履歴書・自己PR文の書き方」「就職情報の収集方法・体験発表」など多岐にわたり、できるだけ早い時期に職業観・就職観を確立して就職活動ができるよう支援している。

・求人情報・就職情報の収集

月50社のさまざまな業種の企業訪問を通じて、企業の求める人材像や就職関連情報の収集などにより学生と志望先とのマッチングを図っている。

・インターンシップ研修

学生が在学中に就業体験を行うことを通じて、就業意識の形成や将来のキャリアアップなどを実現した。また、「大学ではできないこと」を経験することで「大学でしかできないこと」を再認識し、将来に向けた学業についての意欲を高めることなどを図ってきた。

・外機関との連携

ハローワークなどとの関係を強化し、未内定者の就職活動支援のため、学内において相談会を毎月実施した。

大学就職率推移表

(%)

	2009. 5. 1	2010. 5. 1	2011. 5. 1	2012. 5. 1	2013. 5. 1	2014. 5. 1	2015. 5. 1
大学	95.3	97.0	97.1	96.5	97.6	96.1	98.9
全国	95.4	91.5	90.9	92.6	94.7	95.2	-

大学・2014年度業種別就職先一覧

進路決定業種名		進路決定企業名
農業, 林業		阪神畜産
製造業	その他の製造業	マルウ接着
情報通信業		富士通コミュニケーションサービス
商業	小売業	愛媛ダイハツ販売、トリニティアーツ、DCMダイキ、ミキハウスグループ、モバイルコム、くつ木
金融業	銀行業	伊予銀行
	その他金融業	いよぎん保証
その他の専門・技術サービス		安永広告
宿泊業, 飲食サービス業		奥道後国際観光、スターバックスコーヒージャパン、日本マクドナルド、Goute Cafe (グートカフェ)、南商事
生活関連サービス業・娯楽業		福山 (スタジオ松山)、アスピカ
教育・学習支援業	公立幼稚園	砥部町職員
	幼稚園	勝山幼稚園、松山幼稚園、ロザリオ幼稚園、海の星幼稚園、愛媛幼稚園、久米幼稚園、東松山幼稚園・東松山保育園、番町幼稚園・桃山幼稚園、今治幼稚園、三葉幼稚園、さくら幼稚園、天使幼稚園、ジャックと豆の木園
	その他	イラストリアス
医療福祉	医療業, 保健衛生	住友別子病院、新歯科医院優歯科オフィス、地塩会 (南国中央病院)
	公立保育所	松山市職員、中土佐町職員、大洲市職員 (臨時)、八幡浜市職員 (臨時)
	保育所	松山乳児保育園、松山隣保館保育園、はなみずき保育園、法龍寺保育園、立花保育園、和泉保育園・星岡保育園・浮穴保育園・道後保育園、桑原保育園 (小学館集英社プロダクション)、もとしろ保育園、ポラリス保育園、ひまわり保育園、小西保育園、よいこのくに保育園、愛媛

		大学医学部付属病院あいあいキッズ、小羊園、JPホールディングスグループ、大田区荻中保育園（ベネッセスタイルケア）
	児童福祉	えひめこどもの城、松山乳児院
	老人福祉・介護	セントケア・ホールディング、ベストケア、安信、梅本の里
	障害者福祉事業	松山鍼灸接骨院自立サポートセンター育、宗友福祉会（みどり園）、日野学園
	その他の社会 保険・社会福祉 介護事業	松山市社会福祉事業団、西予総合福祉会、愛媛県社会福祉事業団
複合サービス事業	協同組合	えひめ中央農業協同組合
サービス業		イヨテツケーターサービス、三原産業
公務	国	防衛省職員
	府	大阪府警察官
	県	愛媛県職員（臨時）
	市	今治市職員（臨時）
	町	松前町職員（臨時）

短期大学就職率推移表 (%)

	2009.5.1	2010.5.1	2011.5.1	2012.5.1	2013.5.1	2014.5.1	2015.5.1
短大	98.0	98.7	96.6	96.7	99.1	96.9	97.9
全国	94.5	88.4	84.1	89.5	94.7	94.2	—

短大・2014年度業種別就職先一覧

進路決定業種名		進路決定企業名
建設業		大竹建設、ワイズ・ケー（ハウス・ラボ）
製造業	食料品・飲料・ たばこ・飼料	ルナ物産、ハタダ、一六本舗、志賀商店、愛興食品
	はん用・生産 用・業務用機械 器具	大可賀造機
	電気・情報通信 機械器具	電気興業
	その他の製造業	谷水産業
情報通信業		四国中央テレビ
運輸業、郵便業		丸協運輸

商業	卸売業	四国ノボックス、信栄機鋼、三興化学工業所、木下商店、ベネリック、みさき果樹園
	小売業	松山三越、伊予鉄高島屋、トヨタカローラ愛媛、三陽商会、日産プリンス愛媛販売、ビギ、ユニクロ、ハッピーファーマシー、ナルミヤ・インターナショナル、ベベ、アゴラ、エービーシー・マート、コムニカ、オートサービス・エム、AQUA LEGEND、ホスネットジャパン、トリニティアーツ、ガリレオコーポレーション、二木ゴルフ
金融業	銀行業	愛媛銀行
	貸金業	いよてつカードサービス
	その他金融業	愛媛信用金庫
	保険業	富士火災海上保険
不動産取引・賃貸・管理業		セイコー不動産、エース住宅、住宅情報館、上浮穴産業、アート不動産
学術研究, 専門・技術サービス業		四電技術コンサルタント、ウエストコンサルタント、日本タオル検査協会、ブリッジインターナショナル
宿泊業, 飲食サービス業		スターバックスコーヒージャパン、タリーズコーヒージャパン、協同組合松山給食センター、どん(ザ・どん)
生活関連サービス業・娯楽業		今治冠婚葬祭互助会グループ、ベネフィット・ワン
教育、 学習支援業	学校	松山東雲学園
	公立幼稚園	大洲市職員(臨時)、宇和島市職員(臨時)、西条市職員(臨時)、松前町職員(臨時)、愛南町職員(臨時)
	幼稚園	愛媛幼稚園、育英第二幼稚園、菊本幼稚園、エンゼル幼稚園(調理員)、愛光幼稚園、若葉幼稚園、道後聖母幼稚園、愛育幼稚園、慶応幼稚園、青葉幼稚園、東松山幼稚園・東松山保育園、勝山幼稚園、松山幼稚園、双葉幼稚園、番町幼稚園・桃山幼稚園(幼稚園教諭・栄養士)、大護幼稚園、椿幼稚園、堀江幼稚園、今治幼稚園、三瓶幼稚園、金生幼稚園、花園幼稚園、松山東雲短期大学附属幼稚園、和気幼稚園・太山寺幼稚園・みのり幼稚園
	その他	ABC Cooking Studio
医療福祉	医療業, 保健衛生	済生会松山病院(栄養士)、NTT西日本松山病院、愛媛医療センター(栄養士)、まえおか眼科(フォーサイト)、聖愛会、新歯科医院優歯科オフィス、木原病院、アップル歯科医院、越智クリニック、眼科タカオカ医院、野口眼科・内科・循環器内科、香川労災病院、おかだ整形外科(栄養士)、大洲市保健センター(栄養士)
	保育所(公立)	松山市職員、宿毛市職員、松山市職員(臨時)、東温市職員(臨時)、今治市職員(臨時)、新居浜市職員(臨時)西条市職員(臨時)、八幡浜市職員(臨時)、内子町職員(臨時)

	保育所	松山中央乳児保育園、法龍寺保育園、古川保育園、あさひ保育園（栄養士）、コイノニア保育園・夜間保育所ふくろうの家、久万保育園・NIKO NIKO館・Happy House、橘保育園、十全保育園・中萩保育園、愛媛保育園（調理員）、すみれ保育園、ゆめの森保育園、立花保育園、星岡保育園・浮穴保育園、みなと保育園、松山隣保館保育園、リベカ清水保育園、宮前保育所（保育士・栄養士）、愛育会のぞみ保育園、富久保育園（栄養士）、大町保育園（保育士・栄養士）、みどり保育園、こどもの森、南保育園（栄養士）、ユミー保育園たかのこ、託児所悠遊、マミーズファミリー、潮江第二双葉園
	児童福祉事業	あすなろ学園、松山乳児院
	老人福祉・介護事業	仁勇会（介護老人保健施設 合歓の木）、愛美会（特別養護老人ホーム 樋谷荘）、喜久寿、すいよう会（特別養護老人ホームアカ園）、高仁会（栄養士）、滴水会（介護老人保健施設燧園・栄養士）、済生会松山特別養護老人ホーム、和恒会（介護老人保健施設パナケイア）
	障害者福祉事業	福角会（調理員）、宗友会（はばたき授産園）、鎌倉総合企画（ナイス新居浜）
	その他の社会保険・社会福祉・介護事業	川之江福祉施設協会、松山市社会福祉事業団職員、内子町社会福祉協議会、宇和島市社会福祉協議会
複合サービス事業	協同組合	えひめ中央農業協同組合、松山市農業協同組合、越智今治農業協同組合、愛媛たいき農業協同組合、周桑農業協同組合
	サービス業	シダックスグループ、日清医療食品株式会社、マルタマフーズ、LOHAS、愛媛県体育協会、三原産業、東洋食品、シンセイフードサービス、富士産業、マーチャント・バンカーズ、エームサービス西日本、倫理生活指導センター、日米クック、イヨテツケーターサービス
公務	国	防衛省職員
	県	愛媛県職員、愛媛県職員（臨時）
	市	松山市職員、松山市職員（臨時）、新居浜市職員（臨時）、愛媛県松山発電工水管理事務所（臨時）

[4] 図書・学術情報

① 図書館利用促進

○ ガイダンス

4月～5月にかけて大学・短大の全てのゼミ学生に対し新入生オリエンテーションを実施、6月からは適宜、文献検索ガイダンスを実施し図書館利用を通じて学生への学修支援を図っている。

○ 学生希望図書購入制度

新入生オリエンテーションや読書相談等を利用し、図書購入希望制度の案内促進を図っている。

○企画展示

何よりも充実した学生生活が送れるように新入生を迎える春には「学生生活応援図書」、学期の中旬には試験・レポート提出を想定して「レポート・論文の書き方関連図書」、夏には「前年度貸出・閲覧ランキング上位の本」、秋には「文学賞・話題賞を受賞した本」、冬には「クリスマス関連図書」、年度末には「人間力UPの本」の展示を行っている。

また、附属幼稚園とのコラボ企画として「季節のおすすめ絵本」(年4回・クリスマス)の展示を行っている。

○ベストリーダー表彰

年間の図書館資料多読者を選出し、ベストリーダーとして表彰を行っている。

②学術雑誌

毎年、各学科・専攻において購読学術雑誌の見直選定を行っている。

③愛媛地区共同リポジトリ「IYOKAN」

2011年度から愛媛地区大学図書館協議会参加校において連携している愛媛地区共同リポジトリ「IYOKAN」に、本学の紀要・研究論集等を公開している。

[5]情報化

①情報システム基盤整備

2008年度より運用してきたファイヤウォール機器について、6年間のリース期間満了を迎えたため、機器の更新を行った。更新によりセキュリティ機能が強化された。

2010年度より運用してきた学務システム用サーバ機器について5年間のリース期間満了を迎えたため、機器の更新を行った。更新に伴い最新のWindows環境で利用できるようになった。統合認証システムを導入した。これにより、教職員および学生個人を識別するサービス提供への基盤が整った。

学納金(大短)、校納金(中高)、園納金(幼稚園)のシステムをそれぞれ更新した。

②教育設備

2009年度より運用してきたD-5-2、D-5-3教室の情報教育用PCについて、5年間のリース期間満了を迎えたため、機器の更新を行った。これにより、Windows XPからWindows 8.1に移行を完了した。

eポートフォリオシステム、教職履修カルテシステム、Moodleシステム、授業評価アンケートシステムが導入された。

③講習会

スマートフォン等の携帯端末からのメール利用について講習会を行った。

④Windows XP サポート終了への対応

本-3-7教室の整備を行い、Windows 7以降のOSへ移行した。

図書館のキャレルデスクに設置している PC を Windows XP から Windows 8.1 に移行した。

⑤ Windows Server 2003 サポート終了への対応

Windows Server 2003 が稼働していたウイルス対策システム用サーバを Windows Server 2012R2 の OS へ移行した。

[6] 社会連携・地域貢献

① 松山東雲エクステンションセンター

松山東雲エクステンションセンター（SEC）は、松山東雲女子大学・松山東雲短期大学の持つ教育・研究機能を広く地域社会に開放し、教育サービスを提供することを目的とした生涯学習支援機関である。ここでは託児サービスを行っており、小さなお子様を子育て中のお母様でも安心して学べる環境を整備している。

○公開授業

18歳以上の女性を対象にして、松山東雲女子大学・松山東雲短期大学の正規授業を開放している。

○社会人講座

18歳以上の男女を対象に「資格取得支援、語学、パソコンスキル、暮らし創造、趣味・芸術」の分野に分けて、昼間に限らず夜間も開講し、年齢・性別を問わず受講しやすい環境づくりに努めている。

② 社会連携

○連携包括協定

「子育てしやすいまちづくり」を推進するため松山市と聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部、株式会社えひめりびング新聞社、株式会社エス・ピー・シーと松山東雲女子大学・松山東雲短期大学の5団体で「まつやま笑顔の子育て応援連携協定」を締結した。

松山中央商店街の活性化および学生の問題発見・解決能力の発展や、チーム力、コミュニケーション能力を養うことを目的に子育てしやすいまちづくりを推進するため株式会社まちづくりと松山東雲短期大学現代ビジネス学科で連携協力協定を締結した。

○産官学連携

中四国の14の大学・短期大学と連携して実施している事業「仕事力玉成プロジェクト」（文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」）の「企業と協働したプロジェクト型学習」の取り組みの一つとして、本学と株式会社セブンスターとでお弁当の開発を行った。

③地域貢献

○桑原地区まちづくり協議会

大学が所在する地元組織「桑原地区まちづくり協議会」に参加している。

「桑原地区まちづくり協議会」は、まちづくりの総合計画、行政との協働、地域交流活動、防災・防犯、子どもの安全・非行防止・健全育成、保健・福祉の増進、環境整備・美化、文化・伝統、スポーツ・レクリエーションなど、さまざまな地域協働活動により良好な地域社会の形成および維持を目的とした組織である。

本学は、この組織が開催している毎月の役員会をはじめ、理事会、総会、運営支援委員会や地域行事等に事務局長補佐として出席し、本学の教育活動等の情報を発信・提供するとともに、本学ならではの地域貢献や福祉力向上を図る活動を行う等して積極的に地域交流・地域貢献活動を行っている。

[7]入試

①入学者選抜説明会

今年度は短期大学開学 50 周年を記念し学外（東京第一ホテル）開催。入学者選抜説明会（第Ⅰ部）とあわせて日本私立短期大学協会会長 佐藤弘毅先生をお招きし記念講演会（第Ⅱ部）も開催した。この企画は、短期大学 50 周年という大きな節目に際し、これまでの地域・社会への貢献を振り返りつつ、これからの短期大学の存在意義、未来へのメッセージを高らかに宣言する機会として、主には高等学校関係者へのアプローチを旨としながらも広くステークホルダー全般を意識したものです。

当日出席者は愛媛県内高等学校関係者 54 名、企業関係者 31 名。第Ⅲ部の情報交換会は学内関係者も含め総勢 135 名の参加、中盤から在學生も加わり実りある説明会となった。

②進学相談会、訪問入試相談会

さんぽう、日本ドリコム、栄美通信、アスミル、ライセンスアカデミー、昭栄広報、JS コーポレーション、キッズコーポレーション、エフオール、リクルート等の業者媒体を介して例年どおり行った。

③学校見学会・出張講義

学校見学会：9 校 [東雲・野村・済美・新田・新居浜南・北条・川之石・北宇和]

※東雲・新田・野村は PTA 見学会あり。

寺小屋：今年度初試みとして、塾を訪ねての学校説明会を行った。

出張講義：11 校 [東雲、済美、松山北、上浮穴、北条、宇和島南、丹原、今治北、松山南、辻（徳島）、城ノ内（徳島）] 29 講義。

④高校訪問

愛媛県内を中心に 4 月～9 月前半にかけて訪問。また、12 月、1 月にも一般入試出願を狙って訪問。県外は高知、徳島、香川、大分、広島、山口、沖縄。

また、社会人募集においては松山市内公共施設（松山市青少年センター、コムズ等）6 事業所を訪問し、大学案内等の資料設置をお願いした。（反応は今後調査していく。）

⑤オープンキャンパス

5月を皮切りに7月、9月を中心に開催。(無料送迎バス 松前号を新規運行した)。8月は台風の影響で急きょ中止した。その他、大学祭、クリスマスにあわせてプチオープンキャンパスを開催。3月には1,2年生対象のオープンキャンパスを開催。参加者数は以下の通り。

《女子大学》

	子ども専攻	心理福祉専攻	合計	昨年
5月24日	23	7	30	14
7月13日	23	9	32	27
8月9日	-	-	-	44
9月13日	16	13	29	31
3月23日	21	9	30	20
合計	83	38	121	136

《短期大学》

	保育科	現代 ビジネス学科	食物栄養専攻	介護福祉専攻	合計	昨年
5月24日	60	39	37	5	141	158
7月13日	80	28	45	12	165	142
8月9日	-	-	-	-	-	193
9月13日	93	57	50	21	221	162
3月23日	67	35	31	-	133	111
合計	300	159	163	38	660	766

その他、社会人対象オープンキャンパスも例年どおり7月、10月、2月に開催した。

⑥2015年度入試の主な変更点【短期大学】

- ・短期大学 2+2 入試の導入。(今年度の志願者は0。今後、積極的な学内アピール必須)
- ・介護福祉専攻社会人募集のための入試制度として「しのめ介護オリジナル入試」導入。(今年度志願者1名)

※介護福祉専攻については、2014年12月開催の理事会において、2016年度入試より募集停止とすることが決定。

⑦2015(平成27)年度入試の概要

【松山東雲女子大学】

入試区分	人文科学部 心理子ども学科	
	子ども専攻	心理福祉専攻
	選考方法	
指定校推薦入試	面接、出願書類	
公募推薦入試	I期	小論文(60分)、面接、出願書類(出願資格:評定平均値3.0以上)
	II期	
スポーツ推薦入試	I期	面接、出願書類

	Ⅱ期	
生徒会活動推薦入試		
一般入試	A日程	○国語 (60分) ○英語 (60分) } 2科目必須 ※2科目の合計点で判定
	B日程	
大学入試センター試験 利用入試	A日程	志願者が受験している大学入試センター試験の科目のうち、①②の2科目の得点と出願書類との総合評価で可否を判定します。ただし、「英語」は、リスニングの得点を利用しません。 ①「国語」、「英語」のどちらか高得点1科目。 ②①に該当する科目以外の最高得点1科目。
	B日程	
	C日程	
特別選抜入試【社会人・帰国生】		小論文 (60分)、面接、出願書類
AO入試		面談、出願書類
外国人留学生選抜入試		日本語適性検査、面接、出願書類

※指定校推薦入試については指定校に直接通知する。

※推薦入試においては調査書を重視し、総合的に判定する。

※センター試験利用入試では個別学力検査等は実施しない。

【松山東雲短期大学】

入 試 区 分			保育科・現代ビジネス学科・生活科学科
			選 考 方 法
推 薦 入 試	特 別 推 薦	指 定 校 制	出願書類、面接
		ス ポ ー ツ 推 薦	
		生 徒 会 活 動 推 薦	
	専 願 推 薦		出願書類、面接、小論文 (50分)
公 募 推 薦			
一 般 入 試		A日程	出願書類、学力検査 (国語) ※古文・漢文を除く (60分)
		B日程	
大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験 利 用 入 試	A日程		センター試験の科目のうち上位1科目 (ただし、現代ビジネス学科においては国語と英語のうち、 上位1科目)
	B日程		
	C日程		
A O 入 試			出願書類、面談
特 別 選 抜【社会人・帰国生】			出願書類、面接
外 国 人 留 学 生 選 抜			出願書類、面接

※指定校推薦入試については指定校に直接通知する。

⑧2015 (平成 27) 年度入試結果

志願者数は大学・短大共に増加。短期大学は当初の入学予想数をはるかに上回る 327 名の入学者数となった。女子大学については他大学と併願している層を取り込むためにも教育内容の充実が必要 (特に心理福祉専攻)。2015 年度入学者数は、以下のとおり。

【心理子ども学科 子ども専攻 : 55名】定員 50名 (充足率: 110%)

【心理子ども学科 心理福祉専攻 : 42名】定員 60名 (充足率: 72%)

合計 97名

女子大学定員 110名 (充足率: 89%)

【保育科 : 127名】定員 100名 (充足率: 127%)
 【現代ビジネス学科 : 87名】定員 70名 (充足率: 124%)
 【食物栄養専攻 : 89名】定員 80名 (充足率: 111%)
 【介護福祉専攻 : 24名】定員 40名 (充足率: 60%)

合計 327名

短期大学定員 290名 (充足率: 113%)

[8] 広報

① 松山東雲短期大学 開学 50 周年記念事業

・ 2014 年に短大開学 50 周年を迎えたことを記念し、以下の事業を実施した。

日 程	内 容
4月2日(水)	『2014年度入学式』 食物科第一期卒業生を入学式にご招待。11名の卒業生にご出席いただき、共に祝う機会を持てた。 
5月13日(火)	『開学記念礼拝』 山崎文雄理事長が「最も大いなるもの」をテーマに、在学生・教職員を対象にチャペルにて講話された。
5月29日(木)	『開学記念講演会・入学者選抜説明会』 佐藤弘毅氏(日本私立短期大学協会前会長)をお迎えし、「新時代の短期大学の役割と機能」をテーマにご講演いただく。東京第一ホテル松山にて開催し、企業や施設関係者、県内高校教員にご出席いただいた。
9月5日(金) ～6日(土)	『平成の保育を考える in 松山東雲 2014』 「自分の保育を創造する楽しみ」をテーマに、2日間にわたり全国から約130名の保育関係者の参加があった。
9月24日(水) ～11月9日(日)	『50年の歩みパネル展』 東雲祭最終日までピアホールにて開催。学生図書委員との合同企画で、パネルを製作・展示した。
9月27日(土)	『生活科学科食物栄養専攻 特別講演会』 卒業生で公認スポーツ栄養士の大田美香氏(ニュートリションM代表)を講師としてお招きし、「食から広がる可能性 ～人生を変える食事術～」をテーマにご講演いただいた。
10月4日(土)	『開学50周年記念式典および祝賀会』 元松山東雲短期大学教授の三谷高康先生(桜美林大学学長)をお招きし、「私たちの伝統」をテーマにご講演いただいた。式典はチャペルにて、祝賀会は国際ホテル松山にて開催した。 

10月11日(土)

『パイプオルガン・レクチャーコンサート』(共催:松山教会)
奏者に松居直美氏をお迎えし松山教会にて開催した。

・制作物、広告他

「開学50周年パンフレット」「松山東雲短期大学50年の歩み(PV)」「CLOVER DAYS 06版 開学記念号」「開学50周年オリジナルサイト」「松山東雲短期大学開学50周年記念研究論集」を制作、発行した。また、開学記念日である5月2日に、愛媛新聞に全面広告を掲載。同じ体裁でポスターも制作した。
※「松山東雲短期大学50年の歩み(PV)」は、第34回愛媛広告賞(その他部門)



・コラボ企画「しのめ低カロ BENTO」

生活科学科食物栄養専攻の学生たちが、「愛媛に根付き、女性力を育み発揮」してきた、という共通点があるコープえひめコラボし、約半年間かけてお弁当を開発した。栄養バランスを考えながらも、約400kcalとカロリーを抑え、さらに抹茶プリン付きという満足感のあるお弁当に仕上げた。

コープえひめ東本店、久米店にて、9/20(土)～10/2(木)の間販売。



②広告・広報関係

3シーズン目となるキャッチコピー「Begin+ing 次のはじまりを、しのめから」を浸透させるため、継続して新聞広告を掲載した。2014年度のテーマは「掴む力を。」開学記念日の9月16日は新聞が休刊日であったため、15日に愛媛新聞に掲載。その他、各種広告・ちらし等も製作、発信した。その他、協賛広告、看板表示なども継続した。2014年度は、年間通して「短大開学50周年事業」の告知を中心に広報した。

(3) 高等学校・中学校・附属幼稚園

[1] 高等学校・中学校

① 学校行事

- 4月 1学期始業礼拝(4/8)、入学式(4/9)、生徒会歓迎会(4/11)、携帯電話安全講話(4/15)、
参観日(4/23)、全校遠足(4/25)
- 5月 家庭訪問(5/8～6/7)、救急救命講習会(5/14)、中間考査(5/14～ 中5/16・高5/17)
高2修学旅行(5/14～5/17)、自転車交通安全講座(5/20 中)、学校説明会・公開授業
(5/21)、愛媛県高等学校総合体育大会(5/30～6/2)
- 6月 生徒総会(6/3)、ジレット先生墓参(6/7)、花の日訪問(6/9 中)、松山市中学校総合体育大会
(6/9～6/11)、自転車交通安全講座(6/10 高)、空気環境測定(6/11)、四国高等学校総合体育大会
(6/13～6/15)、第1回オープンスクール(6/14)、松山東雲女子大・短大による説明会(6/17)、
体育祭(6/26)、
- 7月 性衛生講話(7/1)、期末考査(7/5～7/10)、ピアス館引越作業(7/17～7/18)、「親父の会」
奉仕活動(7/19)、愛媛県中学校総合体育大会(7/22～7/25)、三者懇談会(7/23～

- 7/31)、1 学期終業礼拝(7/25)、第 2 回オープンスクール(7/26)、夏期補習(7/28～7/31)、
 全国高等学校総合文化祭(7/28～7/30)、中高 YWCA 全国カンファレンス 2014(7/31
 ～8/2)
- 8 月 全国高等学校総合体育大会【アーチェリー】(8/1～8/4)、四国中学校総合体育大会(8/2
 ～8/3)、第 62 回全日本吹奏楽コンクール愛媛大会(8/2)、全国高等学校総合体育大会【バ
 レーボール】(8/7～8/11)、全国中学校総合体育大会(8/18～8/22)、第 3 回オープンス
 クール(8/22)、
- 9 月 2 学期始業礼拝(9/1)、クローバーデイ(文化祭)(9/14)、創立記念礼拝(9/12)、
- 10 月 中学校教員対象入試説明会(10/8)、マドンナ・レシテーションコンテスト(英語暗誦大
 会)(10/11)、松山市中学校新人大会【バレーボール】(10/15～10/17)、中間考査(10/21
 ～10/23 中・10/24 高)、松山市中学校新人大会【バドミントン】(10/21)
- 11 月 薬物乱用防止講話(11/4 高)、愛媛県中学校新人大会(11/8～11/10)、入試説明会(11/8)、
 大学見学(11/11 高 2)、薬物乱用防止講話(11/11 中)、愛媛県高校総合文化祭(11/15
 ～11/16)、クリスマスツリー点灯式(11/18)、第 3 回愛媛県私学振興大会(11/22)、全
 日本バレーボール高等学校選手権大会愛媛県代表決定戦(11/23～11/24)、期末考査
 (11/25～11/29)
- 12 月 性衛生講話(11/2)、高 3 テーブルマナー(12/12)、三者懇談会(12/12～12/18)、クリ
 スマスコンサート(12/15)、中 2 テーブルマナー(12/16)、中 1 テーブルマナー(12/17)、
 中 3 テーブルマナー(12/18)、2 学期終業礼拝(12/19)、クリスマスページェント(12/19)、
 中学入試前期日程(12/23)
- 1 月 第 23 回全日本高等学校女子サッカー選手権大会(1/2～1/7)、第 67 回全日本バレーボー
 ル高等学校選手権大会(1/5～1/7)、3 学期始業礼拝(1/8)、ホームカミングデイ(1/11)、
 中学生バレーボール新人大会中予地区予選(1/11)、高校推薦入試(1/15)、大学入試セ
 ンター試験(1/17～1/18)、高 1 テーブルマナー(1/20)、高 1 テーブルマナー(1/21)、
 中学入試後期日程(1/24)、高 3 学年末考査(1/27～1/31)
- 2 月 一般入試(2/5～2/6)、中学入学者説明会(2/11)、中学スプリングフェスティバル(2/14)
 学年末考査(2/21～26)
- 3 月 高校卒業式(3/1)、高 2 テーブルマナー(3/3～3/6)、中 3 修学旅行(3/5～3/10)、「親父
 の会」奉仕活動(3/14)、四国高校バレーボール新人大会(3/14～3/15) 中学修了式(3/17)、
 3 学期終業礼拝(3/20)、高校入学者説明会(3/21)、四国中学生バレーボール選抜優勝
 大会(3/21)、全国高校アーチェリー選抜大会(3/26～3/28)、第 14 回世界ユース最終
 選考会【アーチェリー】(3/30～4/1)

②学習指導

学習指導として、一人ひとりの能力を引き出すきめ細かな学習指導を過年度より継続して行っ
 ている。中学校では、中学 3 年間の内容を確実に定着させる指導を徹底している。高等学校では、
 特進コースと進学コースがあり、特進コースでは、質の高い授業で国公立大学・難関私立大学を
 目指している。進学コースでは推薦入試や松山東雲女子大学・短期大学の内部進学などを目指し
 ている。

また、本校独自の学習プログラムとして、全国の学習塾や予備校で利用されている「個別学習システム」eトレの導入、学期に1回程度国数英のテストを実施するラーニングテストの導入、下校時刻後の自習室の利用（中学生：午後8時まで、高校生：午後9時まで）、松山東雲女子大学および松山東雲短期大学との高大連携による秘書検定取得プログラムや出張講義（高3進学コース）を行い、学習効果を高めている。

③進路指導

進路指導として生徒一人ひとりとしっかり向き合い、生徒の希望する進路や将来の夢の実現のため指導を行っている。日頃の受験対策指導に加え、長期休業期間においては、受験対策特訓やセンター試験対策などを行っている。

2014年度の実績は以下のとおりである。

【 4年制大学 】

富山大学	愛媛大学	青山学院大学	大妻女子大学
桜美林大学	國學院大學	国際基督教大学	上智大学
尚美学園大学	洗足学園音楽大学	東京女子大学	明治学院大学
東洋英和女学院大学	東洋学園大学	金城学院大学	びわこ成蹊スポーツ大学
帝塚山大学	京都女子大学	京都ノートルダム女子大学	同志社大学
同志社女子大学	立命館大学	大阪国際大学	関西福祉科学大学
甲子園大学	甲南大学	神戸松陰女子学院大学	神戸女学院大学
川崎医療福祉大学	広島国際大学	松山大学	松山東雲女子大学

【短期大学】

昭和音楽短期大学	大阪青山短期大学	環太平洋大学短期大学部	松山東雲短期大学
----------	----------	-------------	----------

【専修・各種学校】

松山赤十字看護専門学校	青二塾	東京ダンス&アクターズ専門学校
日本美容専門学校	代々木アニメーション学院	広島ヒューマンアカデミー
愛媛料理製菓専門学校	河原パティシエ・医療・観光専門学校	河原医療大学校
河原医療福祉専門学校	河原デザイン・アート専門学校	

【海外】

Sydney Institute	North Sydney Institute
------------------	------------------------

④部活動の実績

本校ではバレーボール部、サッカー部、アーチェリー部、ゴルフ部、新体操部、ダンス部、美術部、ハンドベル部、演劇部、吹奏楽部など活発に活動している。

2014年度の全国大会への出場結果は以下のとおりで、今後の活躍が期待される。

大会名・参加部	期 日	会 場	結 果
全国高等学校総合体育大会 バレーボール部	2014年8月7日 ～11日	東京体育館・墨田区総合体育館（東京都）	決勝トーナメント 2回戦敗退
全国高等学校総合体育大会 アーチェリー部	2014年8月1日 ～4日	ゼットエーオリプリスタジアム（千葉県）	女子個人－準優勝 奥村佳子 女子団体－5位
全国高等学校総合文化祭 弁 論	2014年7月28日 ～30日	茨城県土浦市民会館 （茨城県）	優良賞
国民体育大会 アーチェリー競技	2014年10月14日	佐世保市総合グラウンド陸上競技場 （長崎県）	少年女子－3位 若藤綺英羅
全日本高等学校女子サッカー選手権大会	2015年1月3日	神戸市いぶきの森球戯場（兵庫県）	1回戦敗退
全日本バレーボール高等学校選手権大会(春高バレー)	2015年1月5日	東京体育館（東京都）	2回戦敗退
全国高等学校アーチェリー選抜大会	2015年3月27日 ～28日	つま恋多目的広場特設会場（静岡県）	決勝トーナメント 4回戦敗退

[2] 附属幼稚園

① 入園・卒園式

桜の花が咲く 2014 年 4 月 11 日、新入園児 51 名を迎えた。子どもたちは保護者の手をしっかりと握りゆっくりと歩いてきたり、保護者の一步前を 1 人で歩いてきたりして登園して来る姿が見られた。年長組に進級したくま組・きりん組の子どもたちは、登園した子どもたちに「お名前は」と聞いて名札をつけたり、それぞれのクラスに案内をしたりしていた。その表情や動きから年長になった喜びが感じられた。

入園式では賛美歌や「チューリップ」など、お祝いの歌を歌った。入園した子どもたちは、年長の姿をじっと見ていた。その式場の真ん中には毎年、子どもたちが 10 月に球根を植え、育てた赤白黄色のチューリップの花をいける。その丸いテーブルの周りをグルグルとうれしそうに走る 3 歳の入園した子ども 2 人。「大丈夫よ、いいよ」というまなざしで年長の子どもたちは見つめていた。この姿からも「年長になったよ」という気持ちが伝わってきた。



(入園式の朝)



(満 3 歳入園式の後で)

また、満 3 歳になった誕生日から入園する子どもたちの入園式を今年度は 6 回行った。1 人の子ども 4 人の子どもとその時々で人数は違う。ご家族や先にお誕生日を迎えた満 3 歳児クラスの子どもたち、年長の子どもたちと一緒に祝いをする。



(卒園証書授与)



(保護者からお花を頂いて)

このように入園の時には、いつも新しい子どもたちを迎えてきたきりん・くま組の子どもたちが卒園する日を迎えた。2015年3月19日、園児数195名の内、52名の子どもたちが卒園した。卒園式は、オルガンの音色を聞き、賛美歌を歌い山本有紀宗教主事の聖書のことば・祈り。そして、棟方園長より卒園証書を受け、自分の決めた好きな歌を一生懸命歌う子どもたち。そうした姿に入園した頃の姿を重ねて成長を喜ぶ若き保育者の涙が光っていた。保護者会（母の会）からいただいたたくさんのお花に包まれた卒園式。子どもの傍で子どもの気持ちに応えていきたいと願う保育者にも新たな力をいただいた。

②夕涼み会

8月21日17時30分から19時30分まで、第3回目の夕涼み会を行った。今年は雨が降りそうだったので、外での食事場所は作ることができなかった。ピアホールではカレー、そうめん、唐揚げ、スイカを家族や友だちと一緒に食べた。プログラム最後の花火ができるかどうか心配していたが、雨が降らなかったのも、準備した仕掛け花火ができ、流れのあるきれいな光に歓声があがった。参加者の親交を深めるよい機会となった。

③実習生を迎えて

本園は、幼稚園教諭の免許を取得する学生たちの実習の場であり、保育者は実習指導を行う役割をもっている。保護者も実習生の存在を理解し受け止めて協力してくださっている。

本年は昨年度より1校増え、地域の中学校3校からの職場体験をお受けした。また、中学校や小学校から町探検で、子どもたちの訪問があった。お兄さんやお姉さんの来園を、心待ちにしている子どもの姿がみられる。これからも、子どもに関わりあうことを通して、ともに学び合っていきたい。

5月7日から9月19日まで、一人につき3日間、保育科一年生の観察実習

5月12日から23日、保育科二年生の第一次実習、10月3日から17日まで第二次実習

6月4日から7月7日まで女子大「遊び研究」の授業での実習

11月12日から12月5日まで女子大子ども専攻二年生の実習

2月9日から12日まで短期大学保育科2年生4名の実習

④卒園した子どもたちのクラス会

7月22日、卒園した小学校1年生53名、2・3年生80名、2015年1月6日には4・5・6年生39名を迎えてクラス会を行った。子どもたちは、お祈りからはじまり、幼稚園で歌った讃美歌や歌をみんなで声を合わせて歌ったり、おやつを食べたりしながら過ごした。退職された先生方も来られ、久しぶりに会った友だちや保育者と会話が弾んでいた。

⑤しののめ広場

5月25日開始、2015年2月25日終了。毎週水曜日10時30分から11時30分まで、しののめ広場を開いた。未就園児の親子が来園し、遊んでいる子どもたちの姿に触れたり子どもたちの歌を聞いたり一緒に歌ったりしながら、園内で過ごしていただいた。子どもたちが「いきいき」としている様子に驚かれる方が多い。参加した子どもさんも三輪車や砂や水、積木や人形などをみ

つけて遊びだすと保護者の表情も和らいでいく。昼食はピアホールを利用し、よき交わりの場になっているようだ。その後でも「たんぽぽ」の保育者に声をかけたり遊んだりして帰られるようである。しのめ広場は幼稚園を知っていただく良い機会となっているので、これからも「たんぽぽ」と連携し子育て支援に取り組んでいきたい。

⑥クローバーセール

11月8日、保護者会(母の会)主催のクローバーセールが今年も実施された。手作り品、余剰品、リサイクル品などを持ち寄り販売するクローバーセール。園のお役に立ちたいとの思いからはじまったクローバーセール。園児の家庭一軒、一軒から持ち寄られた品物を通して、在園児と保護者、卒園した子どもと家族、地域の人たちをつないでいく。毎年、地域の人々がこの日を待って、開始の1時間も前から並んでおられる。今年もそうであった。大学祭と同日開催であることから子どもたちは学生たちから招待され歌を歌いにいった。役員の方々をはじめ、私たちの知らないところでの働きに幼稚園が支えられていることを感謝する。

⑦リードオルガン修理

2015年2月20日、日本基督教団四国教区の伝導援助を本園も受けて、幼稚園のリードオルガンの修理を和久井氏にいただいた。保育をしている時間帯だったので、子どもたちもオルガンの中を見ることができ、調律をしている音にも触れることができた。良い機会となった。

(4) 耐震化事業等の概要

[1] 桑原キャンパス

松山東雲女子大学・松山東雲短期大学

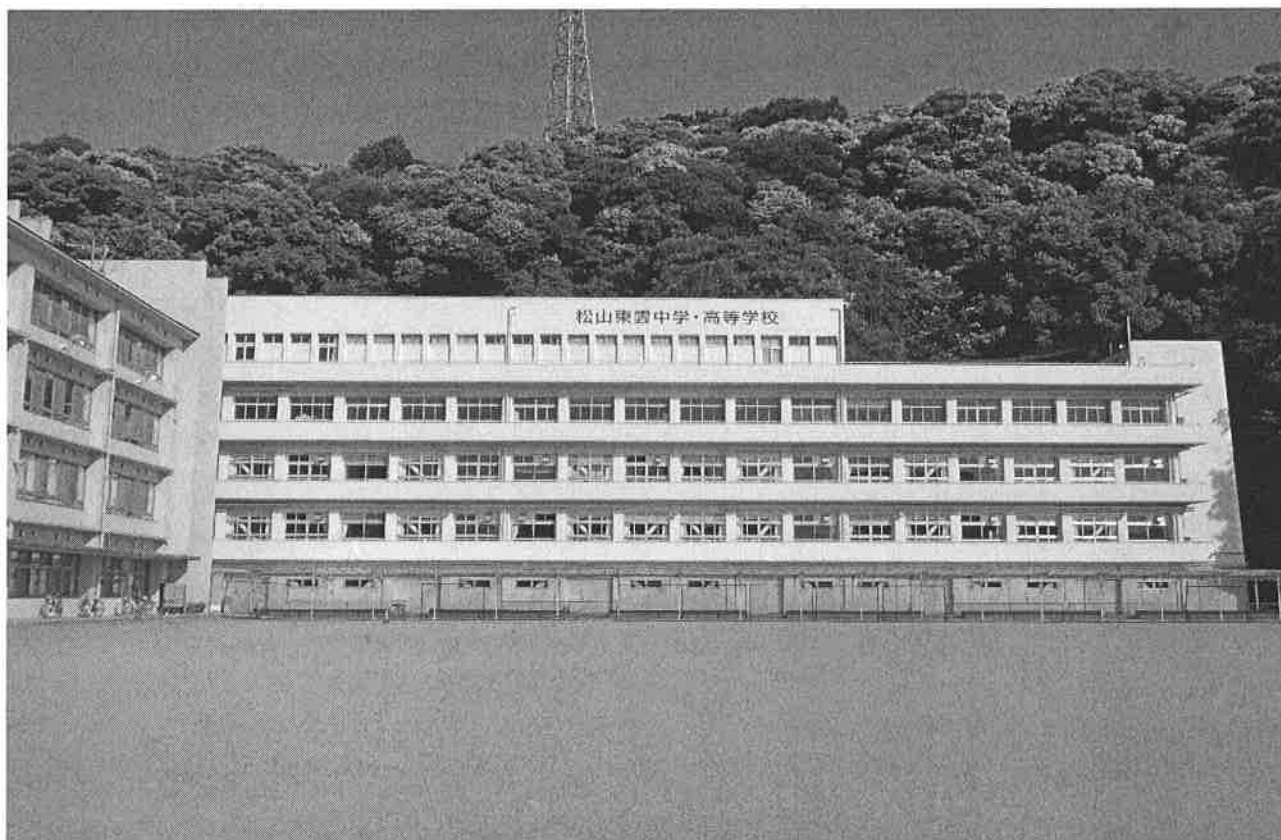
①大学・短期大学施設検討委員会設置	2013年度
・キャンパスデザイン	2014年度～2015年度
・耐震改修工事内容・実施時期の検討 A館・C館・E館・体育館	2014年度～2015年度
・愛真館の耐震改修工事	2015年度(7月～2016年3月)

[2] 大街道キャンパス

松山東雲中学校・松山東雲高等学校

①校舎耐震診断・耐震補強実施設計	2012年度～2014年度
②音楽館の解体工事	2013年度完了
③寮(めぐみハウス)の解体工事	2013年度完了
④ピアス館耐震改修工事	2014年度(2015年3月完了)
⑤体育館耐震改修工事予定	2015年度(8月～2016年3月)

耐震改修後のピアス館



[3] 松山東雲短期大学附属幼稚園

①幼稚園施設検討委員会設置	2013 年度
・幼稚園新園舎の基本設計完成	2014 年度
・幼稚園新園舎の実施設計検討・完成予定	2015 年度

(5) 自己点検評価

[1] 松山東雲女子大学

○認証評価機関〔公益財団法人 日本高等教育評価機構〕

- ・認証評価結果
2010（平成 22）年 3 月 24 日付「大学評価基準を満たしている」と認定
- ・2014 年度の学内作業

①前回認証評価

【条件】

大学の教育研究目的を達成するために必要な財政基盤を早急に改善し、平成 26（2014）年 7 月末に認証評価時以降の財務状況に関する報告書（根拠資料を含む）を提出すること。

【条件への対応】

改善報告書の作成・提出：2014（平成26）年7月23日

【改善報告等に対する審査結果】

公益財団法人 日本高等教育評価機構から2014（平成26）年12月5日付け通知

「改善報告書等の審査の結果、条件及び改善を要する点の内容について、改善が認められた」

②次回認証評価

エビデンス集（データ編）作成作業

[2] 松山東雲短期大学

○認証評価機関〔財団法人 短期大学基準協会〕

・機関別評価結果

2010（平成22）年3月18日付「適格」と認定

・2014年度の学内作業

2013年度・2014年度の整理

(6) その他

○初年度納付金について

	入学金	授業料	施設設備費	実習等費	教育充実費	合計
女子大学	250,000	650,000	250,000	10,000	0	1,160,000
短期大学						
保育	230,000	550,000	250,000	32,000	0	1,062,000
現代ビジネス	230,000	550,000	250,000	32,000	0	1,062,000
生活科学	230,000	550,000	250,000	37,000	0	1,067,000
高等学校	30,000	312,000	40,000	0	0	382,000
中学校	30,000	312,000	80,000	0	0	422,000
附属幼稚園	25,000	204,000	24,000	0	24,000	277,000

3.財務の概要

2014年度中の収支の状況および財産の状況は概要のとおりであり、経営判断指標では「A3段階」となり財務計画に沿った結果となりました。

次年度繰越支払資金は5億1,726万円であり、帰属収支差額は3億5,082万円の収入超過となり、経常的収支は問題のない状況となっています。

2014年度より計画的に耐震改修工事が始まり、2014年度においてはそれに伴う基本金の組入により消費収支差額は支出超過になり、2018年度まではその状況が続く計画となっています。

資金収支計算書、消費収支計算書および貸借対照表における状況は次のとおりです。

①資金収支計算書

本年度決算と予算差異の主なものとして収入では、私立大学等改革推進総合支援事業補助金に採択されたことに伴う補助金収入の増加と短期大学の入学予定者が当初の予想より上回ったことに伴う前受金収入の増加があります。支出では、教員人件費うち兼務教員に係る人件費が増加したことと会計処理の科目変更に伴う設備関係支出の減少があります。結果として、次年度繰越支払資金は、予算と比べ約7,496万円増加しており、次年度の初めにおいて本学の運営に必要な資金量を確保しております。

②消費収支計算書

帰属収入は18億2,163万円、消費支出は14億7,081万円、帰属収支差額は3億5,082万円の収入超過となりましたが、学校法人会計基準に基づき耐震工事関係に係る費用の基本金組入を行った結果、消費収支差額は4,782万円の支出超過となりました。

耐震対応計画は、段階的・計画的に実施しており想定している範囲の支出超過となっているため、学校運営には特に問題のないものとなっています。

③貸借対照表

資産の部では、中高のピアス館耐震工事の実施に伴い有形固定資産が約3億6,730万円増加しました。また、学校の運営の資金量を確保するため、施設拡充引当資産の一部取崩しを行いその他の固定資産が1億7,996万円減少となりましたが、資産の部全体としては、約3億1,781万円の増加となりました。

負債の部では、長期借入金を短期借入金に振替えたことにより長期借入金が約5,132万円減少しました。

基本金の部では、耐震工事関係及び施設関係の借入金返済等に係る基本金組入を行った結果、基本金が約3億9,863万円増加しました。

消費収支差額の部では、耐震工事関係の実施に伴い翌年度繰越消費支出超過額が前年度より約4,782万円増加しましたが、想定している範囲におさまっており学校運営には特に問題のないものとなっています。

私立大学等改革推進総合事業補助金に採択に伴う増

④資金収支計算書[2014年4月1日～2015年3月31日]

短期大学の入学者の増

A. 収入の部

(単位:円)

No.	科目	予算	決算	差異
1	学生生徒等納付金収入	1,055,770,000	1,049,378,100	6,391,900
2	手数料収入	15,166,000	19,158,390	△ 3,992,390
3	寄付金収入	7,135,000	10,734,938	△ 3,599,938
4	補助金収入	568,200,000	614,498,365	△ 46,298,365
	国庫補助金収入	196,312,000	238,342,000	▽△ 42,030,000
	地方公共団体補助金収入	371,888,000	376,156,365	△ 4,268,365
5	資産運用収入	54,267,000	60,202,104	△ 5,935,104
6	資産売却収入	0	0	0
7	事業収入	19,362,000	19,442,056	△ 80,056
8	雑収入	56,426,000	57,179,721	△ 753,721
9	借入金等収入	0	0	0
10	前受金収入	221,608,000	260,402,500	△ 38,794,500
11	その他の収入	345,642,000	353,918,273	△ 8,276,273
12	資金収入調整勘定	△ 500,348,000	△ 522,654,142	22,306,142
13	前年度繰越支払資金	598,924,000	598,924,648	△ 648
14	収入の部合計	2,442,152,000	2,521,184,953	△ 79,032,953

会計処理の科目変更に伴う減

兼務教員の人件費の増

B. 支出の部

(単位:円)

No.	科目	予算	決算	差異
1	人件費支出	881,191,000	896,275,209	▽△ 15,084,209
2	教育研究経費支出	365,554,000	372,537,879	△ 6,983,879
3	管理経費支出	92,962,000	89,142,584	3,819,416
4	借入金等利息支出	9,308,000	9,307,780	220
5	借入金等返済支出	51,320,000	51,320,000	0
6	施設関係支出	464,763,000	467,062,800	△ 2,299,800
7	設備関係支出	41,316,000	23,196,460	▽ 18,119,540
8	資産運用支出	92,254,000	92,253,044	956
9	その他の支出	10,286,000	10,537,860	△ 251,860
10	〔予備費〕	0	0	0
11	資金支出調整勘定	△ 9,103,000	△ 7,712,670	△ 1,390,330
12	次年度繰越支払資金	442,301,000	517,264,007	△ 74,963,007
13	支出の部合計	2,442,152,000	2,521,184,953	△ 79,032,953

私立大学等改革推進総合事業補助金に採択に伴う増

⑤消費収支計算書[2014年4月1日～2015年3月31日]

A. 消費収入の部

(単位:円)

No.	科目	予算	決算	差異
1	学生生徒等納付金	1,055,770,000	1,049,378,100	6,391,900
2	手数料	15,166,000	19,158,390	△ 3,992,390
3	寄付金	7,135,000	12,223,126	△ 5,088,126
4	補助金	568,200,000	614,498,365	△ 46,298,365
	国庫補助金	196,312,000	238,342,000	△ 42,030,000
	地方公共団体補助金	371,888,000	376,156,365	△ 4,268,365
5	資産運用収入	54,267,000	60,202,104	△ 5,935,104
6	資産売却差額	0	0	0
7	事業収入	19,362,000	19,442,056	△ 80,056
8	雑収入	45,975,000	46,729,135	△ 754,135
9	帰属収入合計	1,765,875,000	1,821,631,276	△ 55,756,276
10	基本金組入額合計	△ 433,252,000	△ 398,633,904	△ 34,618,096
11	消費収入の部合計	1,332,623,000	1,422,997,372	△ 90,374,372

兼務教員の人件費の増

B. 消費支出の部

(単位:円)

No.	科目	予算	決算	差異
1	人件費	860,004,000	875,388,728	△ 15,384,728
2	教育研究経費	484,510,000	495,340,620	△ 10,830,620
3	管理経費	95,051,000	90,449,929	4,601,071
4	借入金等利息	9,308,000	9,307,780	220
5	資産処分差額	0	332,048	△ 332,048
6	[予備費]	0		0
7	消費支出の部合計	1,448,873,000	1,470,819,105	△ 21,946,105
8	当年度消費収入超過額			
9	当年度消費支出超過額	116,250,000	47,821,733	
10	前年度繰越消費支出超過額	3,602,670,310	3,602,670,310	
11	翌年度繰越消費支出超過額	3,718,920,310	3,650,492,043	
12	帰属収支差額	317,002,000	350,812,171	△ 33,810,171

⑥貸借対照表[2015年3月31日]

中高のピアス館耐震工事に伴う増

A. 資産の部

施設拡充引当資産の一部取崩しによる減

(単位:円)

No.	科目	本年度末	前年度末	増減
1	固定資産	6,487,426,640	6,300,088,105	187,338,535
	有形固定資産	4,985,246,328	4,617,941,014	↓367,305,314
	土地	655,684,925	655,684,925	0
	建物	3,602,100,121	3,234,918,234	367,181,887
	その他の有形固定資産	727,461,282	727,337,855	123,427
	その他の固定資産	1,502,180,312	1,682,147,091	△ 179,966,779
2	流動資産	808,031,309	677,556,575	130,474,734
	現金預金	517,264,007	598,924,648	△ 81,660,641
	その他の流動資産	290,767,302	78,631,927	212,135,375
3	資産の部合計	7,295,457,949	6,977,644,680	317,813,269

長期借入金を短期借入金に振り替えたことに伴う減

B. 負債の部

(単位:円)

No.	科目	本年度末	前年度末	増減
1	固定負債	1,116,252,382	1,178,008,277	△ 61,755,895
	長期借入金	335,720,000	387,040,000	↓△ 51,320,000
	その他の固定負債	780,532,382	790,968,277	△ 10,435,895
2	流動負債	369,720,498	340,963,505	28,756,993
	短期借入金	51,320,000	51,320,000	0
	その他の流動負債	318,400,498	289,643,505	28,756,993
3	負債の部合計	1,485,972,880	1,518,971,782	△ 32,998,902

耐震工事関係及び施設関係の借入金返済等に係る基本金組入たことに伴う増

C. 基本金の部

(単位:円)

No.	科目	本年度末	前年度末	増減
1	第1号基本金	8,972,636,227	8,574,002,323	→ 398,633,904
2	第3号基本金	287,340,885	287,340,885	0
3	第4号基本金	200,000,000	200,000,000	0
4	基本金の部合計	9,459,977,112	9,061,343,208	398,633,904

中高のピアス館耐震工事に伴う増

D. 消費収支差額の部

(単位:円)

No.	科目	本年度末	前年度末	増減
1	翌年度繰越消費支出超過額	3,650,492,043	3,602,670,310	→ 47,821,733
2	消費収支差額の部合計	△ 3,650,492,043	△ 3,602,670,310	△ 47,821,733

E. 負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計

(単位:円)

No.	科目	本年度末	前年度末	増減
1	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	7,295,457,949	6,977,644,680	317,813,269

⑦ 財 産 目 録

2015(平成27)年3月31日現在

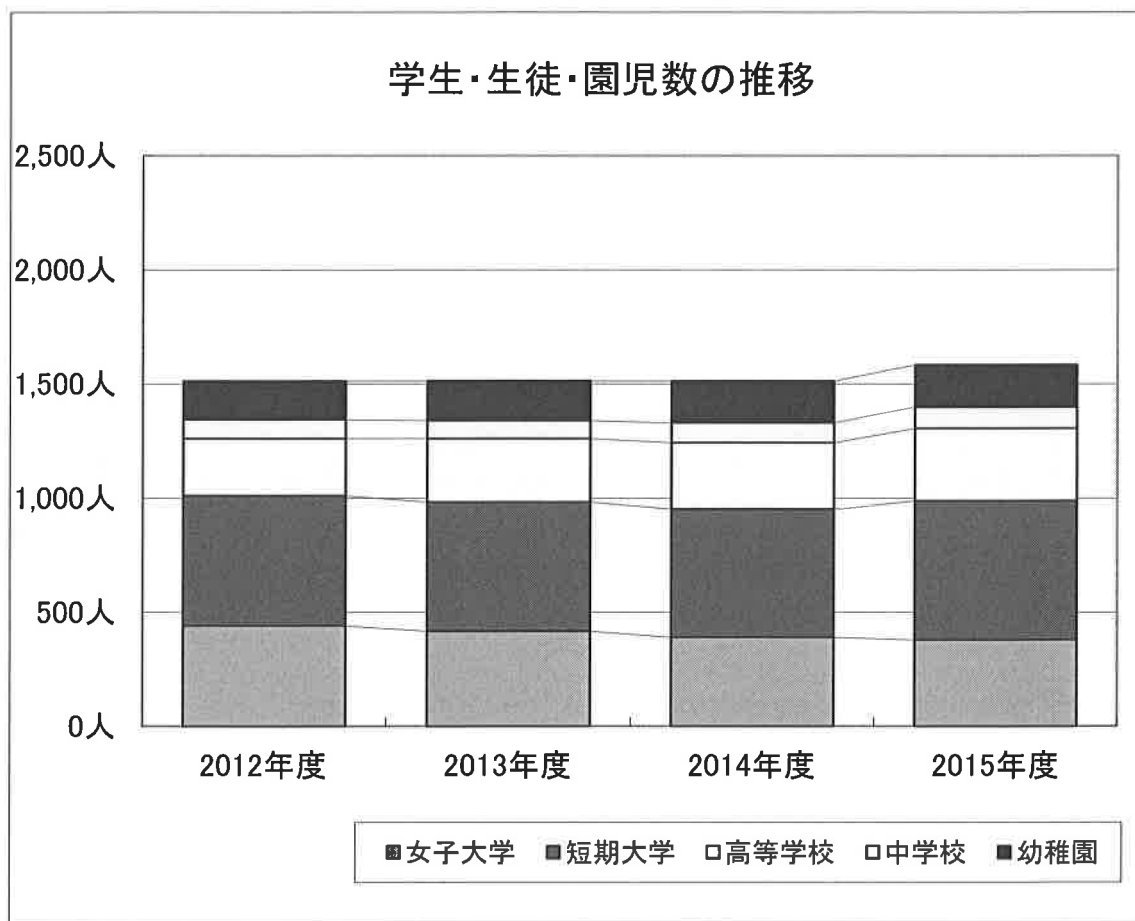
I 資産総額		7,329,479,978 円
内 基本財産		4,985,246,328 円
運用財産		2,310,211,621 円
収益事業用財産		34,022,029 円
II 負債総額		1,485,972,880 円
III 正味財産		5,843,507,098 円

科 目	数 量	金 額
一 資産額		
(一) 基本財産		
1 土地		
桑原校地	33,058.00 m ²	436,353,576 円
大街道校地	27,776.77 m ²	219,331,349 円
計	60,834.77 m ²	655,684,925 円
2 建物	39,113.93 m ²	3,602,100,121 円
3 構築物	44 件	56,568,423 円
4 教具・校具・備品	27,849 点	72,194,545 円
5 図書	215,294 冊	587,667,770 円
6 車輛	4 台	6,526,044 円
7 建設仮勘定	2 件	4,504,500 円
基本財産 合計		4,985,246,328 円
(二) 運用財産		
1 現金預金	33 件	517,264,007 円
2 積立金		
第3号基本金引当資産	3 件	287,340,885 円
施設拡充引当資産	22 件	1,053,992,913 円
計	25 件	1,341,333,798 円
3 電話加入権	23 件	1,690,904 円
4 施設利用権	2 件	18,670,980 円
5 収益事業元入金	1 件	63,470,000 円
6 差入保証金	4 件	3,272,000 円
7 長期貸付金	3 件	73,742,630 円
8 未収入金	18 件	290,695,642 円
9 仮払金	2 件	71,660 円
運用財産 合計		2,310,211,621 円
合計((一)+(二))		7,295,457,949 円
(三) 収益事業用財産		
1 建物		13,734,149 円
2 構築物		37,880 円
3 預け金		20,250,000 円
収益事業用財産 合計		34,022,029 円
合計((一)+(二)+(三))		7,329,479,978 円

科 目	数 量	金 額
二 負債額		
1 固定負債		
(1) 長期借入金		
日本私立学校振興・共済事業団	3 件	335,720,000 円
(2) 退職給与引当金	94 件	780,532,382 円
2 流動負債		
(1) 短期借入金		
日本私立学校振興・共済事業団	1 件	51,320,000 円
(2) 前受金	26 件	260,402,500 円
(3) 預り金	13 件	49,715,328 円
(4) 未払金	3 件	7,712,670 円
(5) 仮受金	2 件	570,000 円
合 計		1,485,972,880 円
正味財産(資産総額-負債総額)		5,843,507,098 円

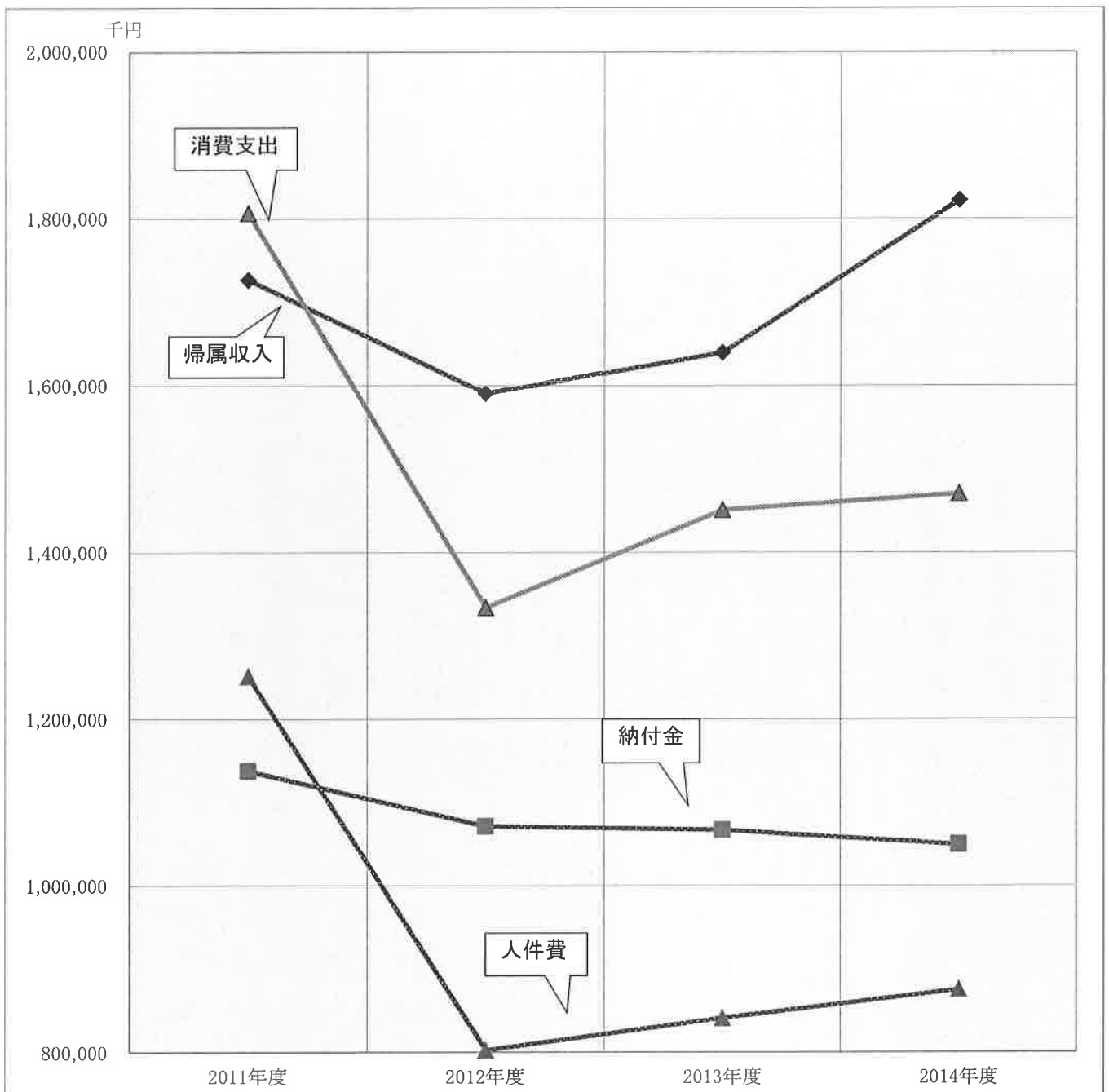
(2) 経年比較資料

①学生・生徒・園児数の推移



	2012年度 平成24年度	2013年度 平成25年度	2014年度 平成26年度	2015年度 平成27年度
女子大学	441人	417人	390人	380人
趨勢率 (%)	100.0	94.6	88.4	86.2
短期大学	570人	566人	563人	609人
趨勢率 (%)	100.0	99.3	98.8	106.8
高等学校	251人	279人	290人	318人
趨勢率 (%)	100.0	111.2	115.5	126.7
中学校	83人	79人	88人	93人
趨勢率 (%)	100.0	95.2	106.0	112.0
幼稚園	168人	174人	182人	185人
趨勢率 (%)	100.0	103.6	108.3	110.1
合 計	1,513人	1,515人	1,513人	1,585人
趨勢率 (%)	100.0	100.1	100.0	104.8

②学園財務推移資料



科目	2011年度決算 平成23年度決算		2012年度決算 平成24年度決算		2013年度決算 平成25年度決算		2014年度決算 平成26年度決算	
	金額	趨勢率	金額	趨勢率	金額	趨勢率	金額	趨勢率
A. 帰属収入合計	1,727,034	100.00%	1,590,383	92.09%	1,639,782	94.95%	1,821,631	105.48%
内、学生生徒等納付金	1,137,837	100.00%	1,071,291	94.15%	1,066,939	93.77%	1,049,403	92.23%
B. 消費支出合計	1,807,025	100.00%	1,334,037	73.83%	1,451,171	80.31%	1,470,819	81.39%
内、人件費	1,251,505	100.00%	802,510	64.12%	841,167	67.21%	875,388	69.95%

帰属収支差額(A-B)	△ 79,991	256,346	188,611	350,812
-------------	----------	---------	---------	---------

生徒数	1,535	1,513	1,515	1,513
-----	-------	-------	-------	-------

監事監査報告書

2015年5月25日

学校法人 松山東雲学園

理事会 御中

評議員会 御中

監事

芝 実



監事

鳥谷紀興



私ども監事は、私立学校法第37条第3項及び学校法人松山東雲学園寄附行為第8条第2項の規定に基づき、2014年度（2014年4月1日から2015年3月31日まで）の学校法人の業務、財産の状況及び計算書類等、すなわち事業報告書、資金収支計算書（人件費支出内訳表を含む）、消費収支計算書、貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む）及び財産目録について監査を行いました。

その結果を以下の通り報告いたします。

1. 監査の方法の概要

2014年度に開催された理事会（19回開催）、評議員会（5回開催）に出席し、理事長から業務の執行の報告を聴取したほか、重要な決裁書類等を閲覧し、学校法人の運営全般及び財産の状況を調査しました。

また、えひめ有限責任監査法人の指定有限責任社員である丸木公介公認会計士からは2015年5月20日に監査の報告及び説明を受け、計算書類等につき検討を加えました。

2. 監査の結果

- (1) 会計帳簿は、記載すべき事項を正しく記載し、事業報告書、資金収支計算書（人件費支出内訳表を含む）、消費収支計算書、貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む）及び財産目録の記載と合致し、適法かつ正確に法人の収支状況及び財政状況を示していると認めます。
- (2) 学校法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する事実は認められません。

以上